平安の天文家たち

空海・晴明・定家の天文への貢献をとりあげ
京都には千年の天文の伝統が
あることをご紹介します。

京都情報大学院大学　作花一志

1000年前の平安京には多数の天文の記録が残っています。その中には彗星、超新星出現も含まれています。
天変の記載調査は陰陽師の重要な仕事だったからです。
彼らの記載よりその天変をPC上で再現してみましょう。

　客星出現に恐れ驚く人々、でも塔に登ってその星を捕まえようとした好奇心旺盛な京童もきっといたことでしょうね。その正体は何だったのでしょう？

平安初期のスーパー天才僧侶である空海が唐から持ち帰ったものは真言仏教だけではありません。その中には星占いもあり、さらに現在の私たちが毎週使っている・・・も。

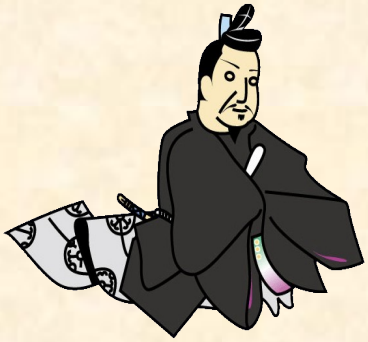
臼井正　『あすとろん』No.2 p.24

作花一志 http://www.kcg.ac.jp/kcg/sakka/koyomi/youbi.htm

平安中期の陰陽師、安倍晴明は陰陽寮に務める天文博士で、決して妖術師ではありません。多数の天変を記録していますが、その中には花山天皇の退位を表すものもあります。また、非常に客観的なハレー彗星出現の記録も残しています。

臼井正　『歴史を揺るがした星々』p.29

作花一志 http://www.kcg.ac.jp/kcg/sakka/seimei/seimei1.htm



平安末期の歌人、藤原定家は百人一首の選者として有名ですが、『明月記』という日記風のエッセイを著しています。その中には世界中で２例しかない「かに星雲（写真）」誕生の様子が記されています。この星雲は20世紀後半の天体物理学の花形天体であり、実は重量級の星の最期を飾る姿だったのです。

福江純『歴史を揺るがした星々』p.43